

札幌で最古の

ライラック

花はスズラン、鳥はカッコウ、そして、札幌の木と言えばライラック。この「札幌のライラック」のルーツを紹介します。

初夏の札幌の街を淡い紫色や白色の花で彩り札幌の木として市民の皆さんに親しまれて「ライラック」の木。今では市内のあちこちに植えられているこの木が札幌に持ち込まれたのは、今から百年以上前の明治二十三年（一八九〇年）のことです。

スミス女学校（北星学園の前身）を創設したサラ・クララ・スミス女史が米国の自宅から持って来たのです。彼女が女学校と北大植物園（北三西八）に植えたものが、札幌のライラックの始まりだと言われています。

そして、この株から多くの木が分けられ札幌のあちこちに植えられました。現在、女学校に植えられた母樹は、戦時中に敵国の木ということで切られてしまいました。このため、北大植物園の中にある

ライラックの木が札幌（北海道）で一番古く大きい株になります。

今でも五月下旬から六月上旬にかけて香りの良いきれいな花を咲かせています。

※ライラック モクセイ科ハシドイ属の落葉低木。南ヨロツバ山地に自生し、高さ五メートル内外。仏語でリラ。

（平成五年六月号・第二回）



北大植物園内のライラックの古木